



2025最低賃金の大巾引上げを目指し

最低賃金（現行：全国加重平均 1055 円・東京 1163 円）の 10 月改定に向け、中央最低賃金審議会・東京地方最低賃金審査会での審議が 7 月 11 日よりスタートしました。（目黒労協/事務局）

中央最低賃金審議会：毎回会場前で共同行動を実施

7 月 11 日、中央最低賃金審議会が厚生労働大臣から諮問を受け、25 最賃の引上げ目安の検討に入りました。同日、引上げ目安を検討する「目安小委員会」第 1 回開催。以降 7 月 22 日（第 2 回）7 月 24 日、7 月 29 日、それぞれ開会に際しては、会場前で共同アクション（全労連・全労協・最賃大幅引



き上げキャンペーン実行委員会)による行動が行われました。

審議会の傍聴は毎回応

募しましたが、抽選のため傍聴出来たり、はずれたりの状況です。

審議会の傍聴記録は労協 HP に掲載(*審議会議事録は厚労省 HP にて)。



7 月 11 日、厚生労働省前にて

政府の掲げる最賃引上げ「額」「時期」では大問題！

物価高騰にみんなが苦しむ現在、25 最賃引上げの焦点は！

政府：2020 年代に全国平均 1500 円に

昨年の不十分な最賃引上げの中で、2024 年 10 月、石破首相が政府として最賃 1500 円目標を「2020 年代中」と前倒し、2025 年 4 月の「新しい資本主義実現会議」による「骨太の方針」でも確認。

そのためには、毎年平均 7.3%の引き上げが必要

この「2020 年代に 1500 円」を達成するためには、過去最高と言われた、昨年の 5.1%を大きく上回る引上げが必要。東京なら 1247 円へ 85 円引上げが必要です。従来の考え方では出てこない数字？

物価高騰をあらわす数値は？

従来の消費者物価数値(持ち家の帰属を除く総合)は 3.8%アップ。しかし、これでは実質賃金低下の実感からかけ離れています。食料品のみなら 7.2%ですが、それでも米価は反映されていません。実感に近い「カレーライス指数」(カレー一皿に使う米・肉・ジャガイモ・ルーなどを計算)は、1 年で 34%アップと試算されています。



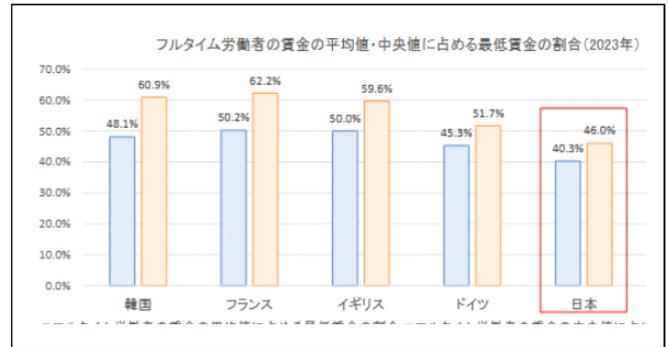
最低賃金 UP は働く人の半数以上の賃上げに

最低賃金影響率：23.2%（4人に1人が改定後最賃以下で働いていた）

2025年7月の中央最低賃金審議会資料によれば、昨年「影響率」（最低賃金額を改正した後に、改正後の最低賃金額を下回ることとなる労働者割合）は23.2%。労働者のうち700万人程度が最低賃金の近くの金額で働く。現在、時給1500円以下で働く労働者は2800万人といわれ、連動が求められる年金・生活保護・個人事業主労賃などを含めると、半数以上の人に最低賃金は影響します。

賃金中央値 60%も超えに

さらに中央審議会資料は、最低賃金の水準として、EU指令にあるその国の賃金中央値の60%以上とする考え方も取り上げられました。→右中賃資料より、この20年賃金中央値は下がり続けて約407万円。60%の時給換算は「1170円」。せめてこの水準には！



東京地方審議会で東京最賃が決まります

現行の最低賃金は各県別の「地域別最賃」です。中央の目安に沿って各県の審議会が答申し、国の機関の各県の労働局長が決定します。しかし2024年は徳島県の34円プラスをはじめ、27県で上乘せ。これに対して東京の最低賃金は10年以上「目安通り」です。6月30日より東京の最低賃金審議会審議も始まりました。物価・特に家賃などが高騰している東京。中央の目安に今年こそ上乘せを求め、みんなで意見を上げましょう。



6月24日 中目黒駅の宣伝行動

目黒労協「最低賃金上げろ！」宣伝行動

6月24日(火)中目黒駅、目黒労協最賃宣伝は新作チラシ in ティッシュを約300組、30分強で配布しました。最賃が決定した10月に比べ、反応はもう一つですが、世論喚起のため7月29日(火)も実施しました。

目黒地域の平和取組み、いろいろ

原水爆禁止・国民平和大行進 in 世田谷→目黒→渋谷

7月24日(木)、5月6日に北海道・礼文島を出発した「原水爆禁止・国民平和大行進」の東京コースが、集結地の文京区・礪川公園をめざし、目黒区を通過しました。同日は通し行進者(*北海道からずっと歩き通し)を含め、約10人の方々が朝10時半に世田谷公園を出発し、五本木交差点→駒沢通りを行進、中目黒(正覚寺交差点)に到着。

休憩後は20人弱で、東京土建目黒支部の宣伝カーを先導に、目黒区職労ののぼり旗も参加し、中目黒・正覚寺交差点を出発。横断幕を先頭に、槍ヶ先から旧山手通り→渋谷をめざし、途中飛び入り参加の青年も。旧宮下公園の北端で渋谷の仲間たちに引継ぎました。今日はこれから新宿区役所まで行進が続きます。わずか1~2時間の参加ですが、「国民平和大行進」に少しでも寄与できたかな、と自分に言い聞かせました。*7/26無事、集結地に到着。(目黒労協/編集部)



今年も行ってきました、土建目黒支部『沖縄プロジェクト』

6月26日(木)~28日(土)の日程で、東京土建目黒支部の「沖縄プロジェクト」が今年も実施され、総勢21人が参加しました。毎年おなじみの方や初めて参加の方も。また目黒の関係者だけでなく、土建関係で渋谷や北区などからも参加しており、多彩な顔触れが揃っていました。以下、参加者より報告をいただきました。

沖縄・辺野古の新基地建設反対

往路、那覇空港に着陸態勢に入ったものの、突如「滑走路が混雑」のアナウンスがあり、空港上空で待機・旋回して着陸となりました。民間空港でありながら、軍用機が離発着する沖縄ならではの日常だそうです。

到着後はレンタカーで移動し、キャンプシュワブ・ゲート前に到着。いつもの通りゲート間口いっぱいに警備員が並び、ダンプカーの搬入を迎え入れる体制です。その前列に椅子を並べ、座り込みを開始するのです。しかしこの座り込みも、機動隊により排除されてしまい、土砂を積んだダンプカーが悠々と基地に入っていきます。普天間基地の早期返還を願いながらも、片や辺野古の海を、自然を破壊していくこの光景を目の当たりにし、ごまめの歯ざしりは止められません。

沖縄から米兵は出ていけ！

沖縄県は観光産業で成り立ち、平和でこそその街並みです。一方で、軍事基地として返還後も居座り続ける米軍が、その戦略拠点としていることに、日本政府は「県民・国民を守るため」として容認しています。米兵はわがもの顔にふるまい、日本の「思いやり予算」で、米軍人のための宿舎が際立って見えます。これが「日米地位協定か」と。現在は、いたるところに弾薬庫・ミサイル関連施設・防空レーダーなど、これらはみな日本の軍拡予算に組み込まれ、あきれるばかりです。



見ればフェンスの向こうに接収された県民の土地までが、米軍基地になっている。80年前、本土決戦に備え、「捨て石」にされた沖縄。当時の沖縄予備隊(日本軍)が、いよいよ南部の糸満市に立てこもり、従軍の疾病の手当てに女学校の学徒をあたらせました。軍司令官の訓示で「最後まで戦って死ぬ」と、自決を強要したことを思うと、いたたまれない思いでいっぱいになる。司令官が「投降」の判断をしていれば、助かった命なのに。「ひめゆりの塔」慰霊碑に向かい、拝礼しました。(東京土建目黒支部/参加者)

日頃の不義理を恥じ沖縄へ

今年は「辺野古新ゲート座り込」、「伊江島めぐり」、「ひめゆり平和祈念館」を中心に訪問・見学、そして戦争と平和について考えさせていただきました。沖縄は鉄道がありませんので、宿泊地の名護市・名護湾にあるホテルを拠点に、レンタカー4台に分乗し移動します。伊江島には、フェリーで渡らなければなりません。

沖縄の「世界一危険な普天間基地」を日本に返却するため、代替え基地を沖縄に新たに造る。そのため、名護市にある米海兵隊の基地「キャンプシュワブ」を拡張、滑走路を新たに造るため、大浦湾を埋め立てているのです。この工事に反対する沖縄県民の「思い」を背負い、基地ゲート前で座り込みを続けており、私たちは今年もこの座り込みに参加しました。しかし、工事は進み土砂を運ぶダンプカーも、台数が増えているのも現実です。それでも毎日、少なくない現地の方や、全国から駆け付けた人たちが座り込みを続けています。



沖縄本島から 9Km の距離にあり、周囲わずか 22Km の伊江島も、終戦間際に移住させられ、破壊されつくした歴史をもっています。そして今でも米軍基地が面積 35% を占め、住民の土地は奪われたままの現実です。自



民党の政治家が「歴史を歪曲」と発言した、「ひめゆり平和祈念館」もじっくり見ることができました。どう見ればあんな言葉が出るのか、本当は見えていないのではありませんか。祈念館を訪れた「自衛官」の感想が掲示されていました。「自分たちは戦争の訓練はしているが、戦争はあってはならない」と。普段の忙しい生活の中で、ほとんど沖縄に寄り添っていませんが、この沖縄ツアーに参加することが、自分としての「罪滅ぼし」と思っています。来年も、また行くつもりです。(目黒労協/参加者)

区内の労組を訪問しています

目黒労協執行委員会では、加盟労組および未加盟労組との情報交換の機会を増やし、さらに一致する課題に共同して取り組むことを目的に、職場訪問活動に取り組んでいます。(目黒労協/編集部)

全水道東水労目黒分会

7月14日(月)の昼休み、水道局目黒営業所の「全水道東京水道労働組合南部第二支部目黒分会」を、目黒労協の執行委員など3人で訪問しました。

先方は分会長と書記長のお二人で、懇談では東京水道局が進めている「東京水道経営プラン2021」について、政策関連会社(*民間会社)への事業移転や、職員・組合員への影響などをお聞きしました。水道局の営業所の半分以上は、すでに関連会社に事業移転が済んでおり、今後も年に2営業所の移転が進められるとのこと。分会長は、昨年度まで渋谷営業所に勤務し、2年間の移転作業を終了し、今年度に目黒に異動となったとのこと。

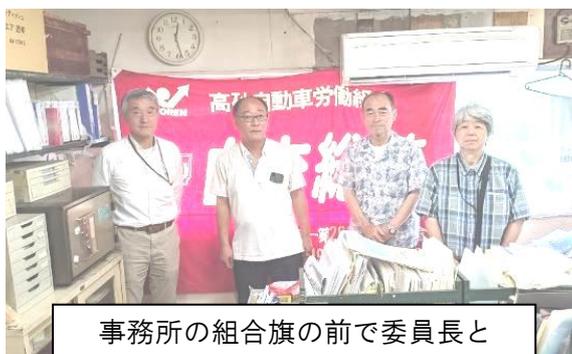
このような営業移転では、水道局職員が内外年月をかけ、培ってきた現場対応力を失わせるだけでなく、職員のやる気と将来展望もなくなるだけと、組合は批判しています。「地域で支援できることあったら、ぜひ声をかけ下さい」と激励しました>(*訪問した目黒労協執行委員)



訪問前の水道局前で

高砂自動車労働組合

7月19日(土)に、労協執行委員3名で高砂自動車労働組合を訪問しました。ロッカールームの奥にある組合事務所に入ると、会社の事務室のように机が並び、ソファがあるわけでもなく、夜勤明けなどに睡眠時間を削って組合活動をされているんだろうなと感じられ、大変さが伝わってきました。須藤執行委員長が対応してくださ



事務所の組合旗の前で委員長と

り、今、組合員は190人くらいで組織率は70%くらいだと説明されました。コロナ禍で組合員も減少したが、新規採用者を組織してほぼコロナ禍前に戻ったとのこと。「新しい人が入り若干平均年齢は下がった。でも退職する人も多いので、人手は相変わらず不足している。若い人も組織しているが、役員の後継者までは、まだまだ難しい。」と現状を話してくれました。今まで勝ち取ったものを守るのが精一杯で、新しいことをする、勝ち取るというところまでは回らないとのこと。

最後に、労協から、例えばライドシェア問題など、地域で一緒に運動していきましょう、労協も微力ながら、一緒に運動したい、と訴えて懇談を終了しました>(*訪問した目黒労協執行委員)